

平成25年6月5日
国土交通省九州地方整備局
筑後川河川事務所
筑後川ダム統合管理事務所

松原ダムの弾力的管理試験の実施について

農業用水の取水が増加する6月期は筑後川の流量が減少するため、河川環境への影響が懸念されます。

そこで6月11日から6月20日の期間において、松原ダムの貯留水（約600万m³予定）を筑後川へ補給することにより河川流況改善を図る、松原ダムの弾力的管理試験を実施します。

問い合わせ先

国土交通省九州地方整備局 筑後川河川事務所
TEL0942-33-9131（代表） 0942-33-9185(管理第一直通)
管理第一課長 南 嶋 哲 郎
国土交通省九州地方整備局 筑後川ダム統合管理事務所
TEL0942-39-6651（代表）
管理課長 川 端 良 一

※筑後川河川事務所ホームページ

<http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/>

筑後川ダム統合管理事務所ホームページ

<http://www.qsr.mlit.go.jp/toukan/>

筑後川の河川環境改善を目指して

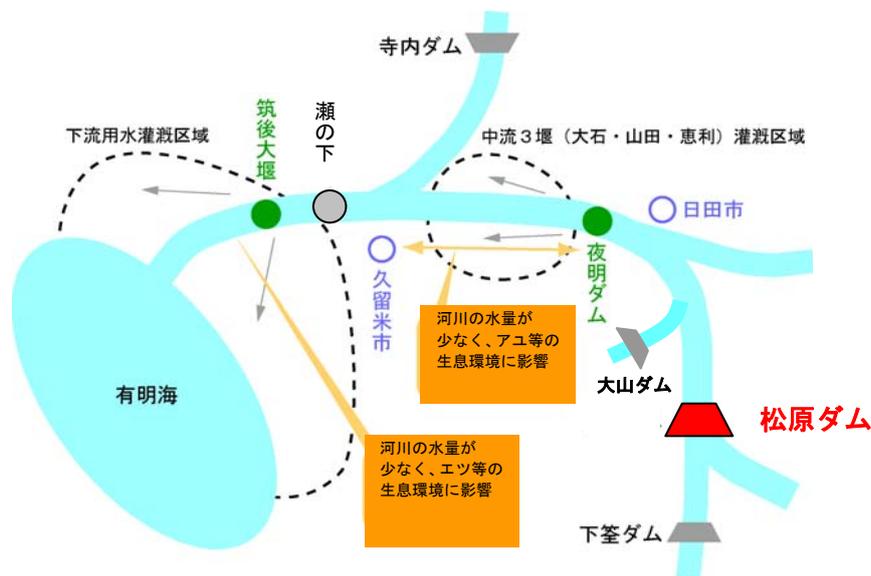
～松原ダム弾力的管理試験の取り組み～

弾力的管理とは？

ダムの弾力的管理とは、梅雨期等に洪水を調節するための容量の一部に水を貯留し、その水を使って、ダム下流の河川環境の保全に役立てるものです。

松原ダム下流の河川環境の課題

松原ダム下流では、6月期に広域的かつ多くの水利用が行われており、河川流況が悪化し河川環境に影響を与える状況が生じています。



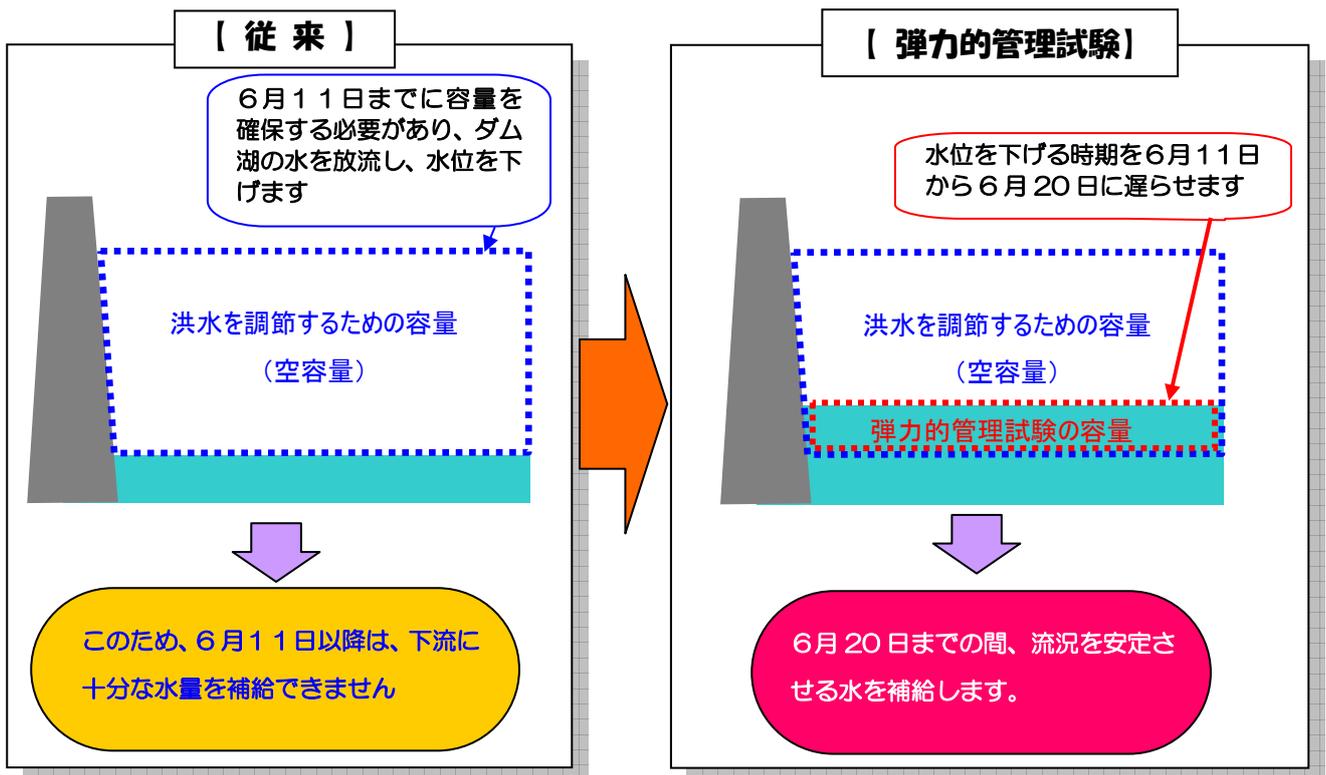
6月中旬～下旬にかけての松原ダム下流の状況



これらの課題を解消するため、**試行的に弾力的管理試験を行っています**

松原ダムにおける弾力的管理試験

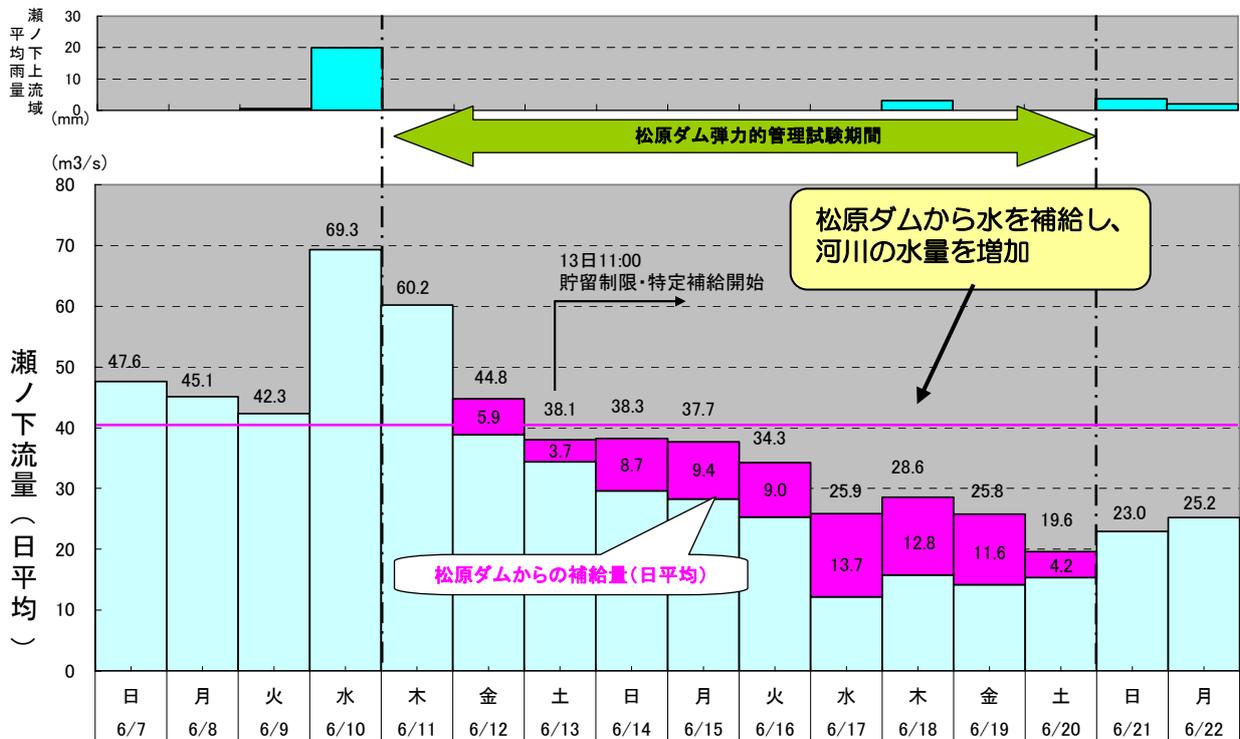
洪水調節を目的に持つ松原ダムにおいては、洪水期を迎えるにあたって洪水を調節するための容量（^{あきようりょう}空容量）を確保するため貯水位を低下させます。試験は、「空容量となっている洪水調節容量の一部」に貯めた水を活用して下流域の環境の保全に努めます。



効果その1：下流河川の流況改善に役立ちました〔過去の事例〕

平成21年度では、農業用水の取水が集中した6月13日から19日において、松原ダムから活用放流を行ったことにより、河川の水量を保つことができ河川環境が改善されました。

平成21年度松原ダムの弾力的管理試験(6月11日～6月20日)効果試算図

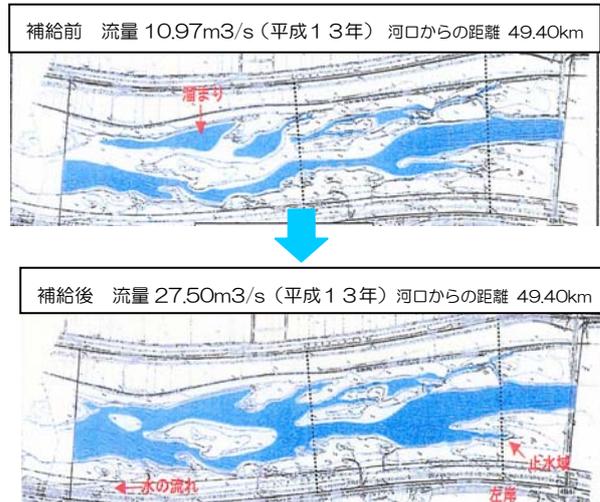


＜山田堰の状況＞
松原ダムからの補給により、堰全面に水が行き渡りました。



効果 その2：
流量の増加により生物に適した環境が増えました

活用放流を行ったことにより、瀬切れ（瀬が干出し、水面の連続性が途絶えること）がなくなり、水面の連続性が保たれるとともに、中州やワンド（本川と繋がっている溜まり）が保持され、生物の生息や生育に適した環境が保たれます。



弾力的管理試験では以下の点に注意して実施しています

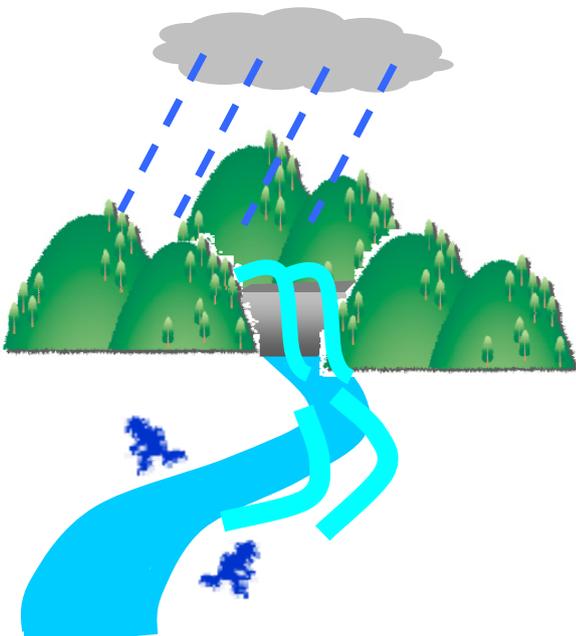
弾力的管理は、下流河川的环境改善に大きな効果があることが分かります。しかしながら、本格的な運用を行っていくためには、以下に示すような課題をクリアする必要があります。

そこで引き続き弾力的管理試験を試行しながら各種データの観測・分析を行い、より安全なダム操作が行えるよう、調査・検討を行っていきます。

- ① 洪水の発生が予想される場合は、貯留している水を事前に放流し洪水が来る前に洪水調節のための容量を確保しなければなりません。
- ② 事前の放流においては、ダム下流の河川利用者の安全が確保されなければなりません。
- ③ 管理体制の整備が必要です。また、関係機関のご理解とご協力が必要です。

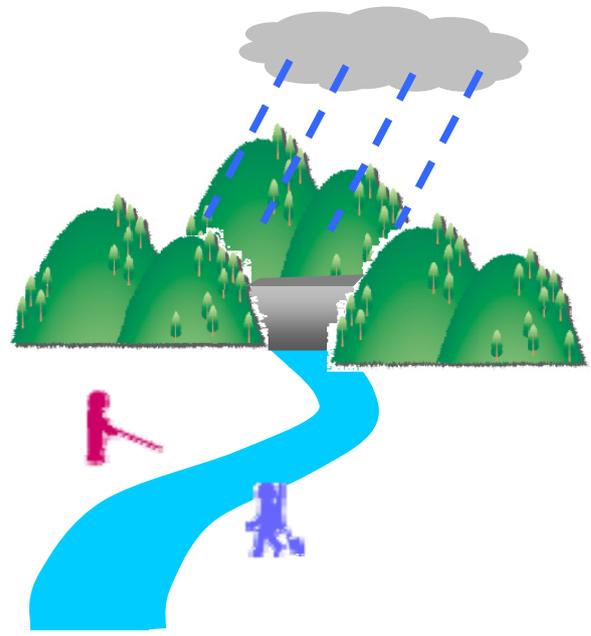
事前の放流を実施する場合には、従来の洪水時と同じように関係機関へ放流前の通知、下流河川での警報吹鳴・巡視等をおこない、河川利用者の安全を確認しながら放流をおこないます。

貯水位が高いままだと・・・



洪水を十分に貯めることができない場合があります。

洪水発生が予想される場合には事前に放流を行い洪水調節のための容量を確保します！



下流の河川利用者が安全に待避できるよう警報吹鳴・巡視等をおこない徐々に放流を実施します！

国土交通省 九州地方整備局

筑後川河川事務所

筑後川ダム統合管理事務所

TEL:0942-33-9131(代表)

TEL:0942-39-6651(代表)